

吉賀建第694号
平成20年10月1日

国土交通省道路局長 殿

岡山県加賀郡吉備中央町長 重 森 計 巳



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

このことについて、別紙のとおり回答します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岡山県吉備中央町

当町は、町内全域に民家が点在し、網の目に広がる道路は整備が遅れている。特に早期の整備が必要な幹線道路については、地方交付税等の削減による地方財政の圧縮により、計画どおりの道路整備が出来ない状況にある。こうした中、道路特定財源の一般財源化が議論されてきたわけですが、「必要な道路はきちんとつくる」事が宣言中に盛り込まれ一応安堵していたところである。しかしながら、道路特定財源の無駄遣いも国民から批判されたことも事実であり、我々地方が必死で取り組んでいる道路行政に携わる者として怒りも感じております。今後は納税者の理解の得られる使途に留意いただきたい。

一方、平成20年度から地方道路整備臨時交付金が地方公共団体の財政状況に応じて55%～70%に拡充されたことは財政の厳しい当町にとりましては非常に有難い制度であると考えます。

今後、少子高齢化、過疎化が進み人口流出に歯止めをかける為にも、こうした地方の道路整備を「必要な道路」と位置づけ、道路特定財源の有効な運用をされることを節に要望します。

②ー1 地域の現状と抱える課題

岡山県吉備中央町

○現状

本町は中山間地域であり、人口14,000人の町である。町内全域に民家が点在し、網の目に道路が広がり、これらの整備はもとより幹線道路の整備も遅れている。

合併にあたり、中山間地域に住み公共交通機関の少ない当町には、車に対する依存度が高く道路整備に重点を置き、新町建設計画・総合計画・過疎計画等を策定してきたところであるが、三位一体の改革以来地方交付税の削減により、計画どおりの道路整備が出来ないのが現状である。

現在、県南へのアクセス道として地方道路整備臨時交付金により1路線、起債事業で4路線の改良を実施中である。

○課題

財政状況の悪化により、起債の枠も制限し事業を進めているが、計画どおりの実施が出来ていない。旧町間を結ぶ幹線道路、又、集落間を結ぶ幹線道の整備が早急に必要であり、地方道路整備臨時交付金事業の継続と拡充をお願いしたい。

過疎事業等で実施予定の道路整備について、地方道路整備臨時交付金事業への移行ができれば幹線道の整備もより早く実施できるものとする。

当町は、岡山県の中央部に位置し、中山間地域での農業立町を掲げ、水稻、ピオネ、高原野菜等の産地化を目指している。岡山市まで車で1時間、岡山空港まで30分という地の利を生かし、安全・安心な農産物の供給を行い都市近郊農業を確立し、都市と農村の交流を促進し、活力のある農業経営を目指し、産物のフライト輸送も視野に置きながら取り組んでいく。

又、少子高齢化が進む中、団塊の世代の就農斡旋、ニューファーマーの育成、若者定住の促進事業として、工業団地への企業誘致にも積極的に取り組んでいく。さらに高齢化が進む中、緊急医療体制の充実が急務となっている。特に緊急車両の通行確保が必要で、集落間を結ぶ幹線道の整備を行なう。

県南へのアクセス道路の整備、又、町内幹線道の整備を早急に行ない住民の生活基盤の充実を図っていきたい。